

平成 22 年 3 月 5 日

平成 21 年度 継続評価書

研究機関 (株)日立製作所、KDDI(株)、
パナソニックシステムネットワークス(株)、エヌ・ティ・ティ・ドコモ(株)

研究開発課題 ユビキタス・プラットフォーム技術の研究開発
(ユビキタス端末技術の研究開発)

研究開発期間 平成 20 ～ 22 年度

代表研究責任者 寺田 修司

■ 総合評価 : 適(適／条件付き適／不適の3段階評価)

■ 総合評価点 : 34点

(総論)

引き続き研究開発を推進することが適当。

(コメント)

- 実証実験から事業化まで期待は大きい、よりインパクトの大きい成果と活動を期待したい。
- 携帯端末をユビキタスサービスの展開に合わせてグローバル展開することへの期待が大きい。
- 特許出願、標準化活動の推進をしつつも、環境変化に対する戦略レベルの見直しも含め、一層のチャレンジを期待する。

(1) 当該年度における研究開発の目標達成(見込み)状況

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 8点

(総論)

事業化、製品化を視野に入れた要素技術の開発が計画通り着実に進められ、ユビキタス端末実装の見通しがつきつつある等、当初の目標を上回る成果が得られている。成果をグローバル展開するために、スマートフォンなどの最近の大きな動きを考慮した戦略見直しを含む研究開発活動を期待する。

(コメント)

- 要素技術の開発が計画通り着実に進められ、RFタグリーダ・ライター省電力化技術などの見通しがついてきている。
- スマートフォン普及の動きは、端末アーキテクチャのみならず通信事業モデルの変革も含んだ動きである。研究開発成果を生かすには、このような動きに対応した戦略見直しが望まれる。
- 海外の有力携帯端末メーカーとの連携について標準化を中心に具体化しつつある点は評価できる。
- フィンランドとの連携は望ましいが、諸外国の活動に対する当該活動の位置付けと差別化は常に明確にして欲しい。

(2) 当該年度における研究資金使用状況

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

(総論)

予算計画書に従って、効率的かつ適正な執行が行われている。

(コメント)

- 計画通りに適切に執行されている。

(3) 研究開発実施計画

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

(総論)

将来の事業化、製品化を視野に入れて、要素技術の開発、実証実験などの活動が概ね適切に計画されているが、研究開発の環境条件変化の動向は常にウォッチし、有意義な実証実験の遂行など適切に実施計画を見直し、また、積極的な海外展開を視野に入れた活動を推進して欲しい。

(コメント)

- スマートフォン普及などの環境条件変化に対応する戦略の見直しを期待する。その結果に合わせて実施体制の見直しも必要となる可能性がある。
- 現状の成果目標(特に特許出願数と研究発表数)は控えめな数字に思われる。

(4) 予算計画

(SABCD の5段階評価) : 評価B

評価点 : 6点

(総論)

効率的な予算計画が組まれている。

(コメント)

- 概ね効率的な予算計画が組まれているが、環境条件変化に伴い、戦略レベルの見直しがある場合は、連動して予算計画の見直しも行う必要がある。

(5) 実施体制

(SABCD の5段階評価) : 評価A

評価点 : 7点

(総論)

携帯電話事業に実績のあるメーカ2社、キャリア2社で構成されており、事業化、製品化が期待できる体制である。ただし、日本を代表する四大企業の共同体制として、対内外的にインパクトの大きい活動が可能であると思われる。また、研究開発環境の大きな変化を取り込むための体制も検討すべき可能性がある。

(コメント)

- 本プロジェクトの目的に即した体制が実現されている。
- 日本を代表する企業で構成されており、メーカ、キャリアの立場の長所を活かして今後も引き続き取り組んでほしい。
- 研究開発を取り巻く環境変化にも敏感に対応する体制の検討も期待される。